

なおみ

理念

安全・信頼・連携・地域密着
私たちは、地域に密着した病院として、他の医療機関や関係の方々との密接な連携のもと、安全で心の通った医療・保健・福祉サービスを提供し、患者さんや地域の皆さんから信頼され選ばれる病院を目指します。

「信頼され、選ばれる病院を目指して」

地域でいかに認知症を支えるか

医療法人 正観会 御野場病院
院長 皆河 崇志

認知症の話題が新聞に登場しない日はありません。行方不明、交通事故、詐欺被害、虐待等々、認知症をめぐる社会的な問題も明らかになってきています。厚生労働省によれば65歳以上の5人に1人が認知症ということですので、高齢化が進んだ秋田市では、新聞で報道されているような事例が多数存在するのは間違いなく、おそらく一般市民の耳目に入らないだけのことだと思います。

御野場病院には多くの高齢者が通院しており、カルテに記載された複数の病名の中に認知症があるのは当たり前になってきました。訪問診療を行っている40名程の患者さんに至っては、認知症を合併していない患者さんの方が少ないほどです。したがって、当院の医療・介護スタッフは、日常的に認知症の患者さんと接していることになります。認知症の患者さんの中には、ご家族、友人、ヘルパー等のサポートで何とか独りで暮らしている方もたくさんいらっしゃいます。中には、認知症はかなり進行しているものの、様々な工夫とサポートで自由気儘に快適な生活を送っている方もいます。また、ともに認知症でありながら、お互いに支えあって穏やかに暮らしているご夫婦もいます。

認知症の患者さんを診療・介護・サポートすることの難しさは、患者さんの生活環境・家族関係がそれぞれ異なることに加え、個々の患者さんの生活歴・性格・認知症の進行度が千差万別であることから、画一的なやり方では対応できないことです。認知症の患者



さんが10人いれば、10人に対して異なった対応が必要になります。さらに問題となるのが、周囲の努力でなんとか在宅での生活を送っていても、何らかの原因、例えば患者さん自身あるいは長く連れ添った配偶者の病気であつという間にそれまでの生活が崩れ去ってしまうことです。

地域で認知症を支える第一歩は、その地域に認知症の患者さんがどのくらい存在し、どのような問題を抱えているかを、地域の医療・介護・福祉関係者が把握することから始まるのだと思います。そして、個別の事例を検討することにより認知症患者さんの行動とその背景を理解し、実践的な対処方法を検討することにより認知症を支える基盤を作り上げることが大事なのではないかと考えています。

御野場病院では、本年2月から「なんケアの会（秋田市南部地域包括ケアを考える会）」を開催します。コーヒーでも飲みながら事例検討を行ったり、ミニレクチャーを聞いたり、気楽に話し合える会にしたいと考えています。事例検討の要旨は、当院のホームページに掲載し、いつでも閲覧できるようにするつもりです。もちろん認知症は主要テーマのひとつであり、第一回目は認知症についての事例検討から始めることにしました。



インフルエンザに3用心

秋田市も本格的に雪が降り始め、さらなる体調管理が求められる季節になってきました。

県内各地でインフルエンザの感染報告が出てきており、日頃の予防活動が特に重要です。

インフルエンザは風邪の諸症状に加え、高熱や関節痛、気管支炎や肺炎を併発し、いわゆる「かぜ」とは症状が異なるとされていました。しかし、診断技術の進歩によって、かぜと似たような症状でも、インフルエンザと診断されることも多くなっています。インフルエンザが流行している時期は、体調の変化に少し敏感になって、早めに医師の診断を受けていただくことをおすすめします。受診の際、「インフルエンザかな?」と思われる場合は、あらかじめお電話を入れておくといいでしょう。

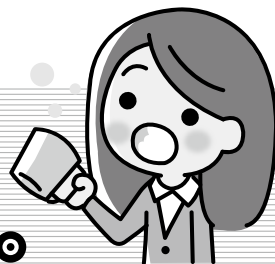
インフルエンザは
予防接種を受けるこ
とはもちろんなので

すが、日々の予防活動が効果的です。うがい・手洗いをすること、人混みは避け、マスクの着用を心がける。栄養や休養をとり、体調管理に気をつける。などです。また、咳エチケットにも意識し、咳やくしゃみをする場合は、人から離れたり、ティッシュなどで口と鼻を抑えたりするなどしましょう。

このような日常の簡単な心がけで、感染症の危険性は大幅に減少します。春はもうすぐそこまで来ております。皆様体調管理に十分気をつけてお過してください。



ノロウイルスに ご注意ください。



ノロウイルスの集団感染等が最近取り上げられております。ノロウイルスは、大変感染力の強いウイルスでして、手洗いや消毒等をしっかりと行なうことが、感染拡大防止に効果的のようです。

夏季に増加する細菌類と違い、ノロウイルスは冬季にピークを迎えます。また、ノロウイルスは他の細菌類やウイルスに比べ小さいため、手のシワ等に入り込みやすいという特徴があります。手洗いは2度洗いが推奨されていますが、なかなかそこまで意識できていないのが現状だと思います。手を洗ったといっても、しっかりと洗えていなかったり、洗い流せていなかったりと、目に見えないウイルスへの対策は、簡単なようで難しいようです。

ノロウイルスの恐ろしいところは、その感染力にあるそうです。食品中などで増殖はしませんが、体内に10個～100個ウイルスが入り込んでしまっただけで発症すると言われています。ノ

ロウイルスの排出量は、1gにつき100万個から1億個。空気中にもしばらく浮遊するそうです。ウイルスは様々なところに飛散し、ウイルスの付着物を介して体内に侵入してきます。

しっかり対処したつもりでも、様々なところにウイルスが付着している可能性があり、また症状がなくても保菌している場合がありますので、日頃から手洗い消毒等の対処を心がけることが感染防止に役立つと考えられます。ウイルスの飛散は半径2m、高さ1.6m程度と広範囲に及びますので、環境の消毒は広範囲に行う必要があるとされています。環境の消毒には次亜塩素酸ナトリウムが効果的であるとされていて、汚物の周辺だけでなく、付近の壁や物など、広範囲にわたって消毒を行うことが推奨されます。

感染症の被害拡大防止には、日頃からの些細な心がけが重要です。まずは手軽にできる手洗い、うがい等から心がけていきましょう。

御野場病院院内野球チーム発足

院内職員による野球チームが結成されました。当院の介護職員を中心として、約20名のメンバーが集まり、昨年10月に紅白戦を開催しました。入社間もない職員から、ベテラン職員まで幅広い年齢層でのチーム構成となりました。当院の医師・事務長も応援に駆けつけ、初回の開催はとても盛り上がりました。今後も野球チームにとどまらず、様々なレクリエーション活動を行っていただきたいものです。



医師紹介



内科
吉川 晴夫

昨年10月より御野場病院の内科に勤務している吉川(きっかわ) 晴夫です。

秋田市の生まれで旭北小、山王中、秋田高、昭和54年に新潟大学医学部を卒業しました。

秋田赤十字病院内科に15年勤務した後、南秋田郡井川町の国民健康保険井川町診療所で15年地域医療に携わりました。

2012年4月から再び秋田赤十字病院でドックの胸部レントゲン写真診断を行っていましたが、診療からは遠ざかっていました。

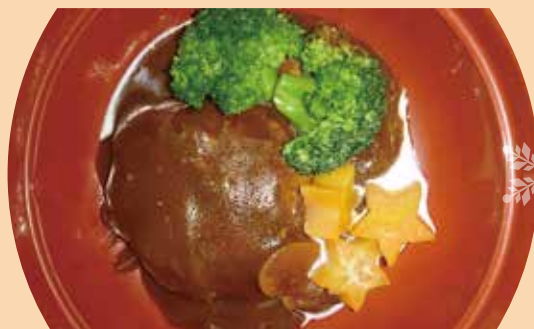
御野場病院に勤務することになり、久しぶりに外来や入院診療を担当することになりました。還暦も過ぎており、なかなか「勘が戻らず」、「新米」医者状態です。周りに助けられながら診療を続けていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。



栄養科 より

12月の行事食について ご紹介いたします。

12月といえばクリスマス☆
茶話会のおやつはモンブラン。
栗のペーストの上に粉砂糖をあ
しらひ、雪に見立て、もみの木
を飾ってホワイトクリスマス
をイメージしました。



ランチデーの日は、クリスマスイブでした。
デミグラスソースでよく煮込んだ煮込みハンバーグ
は、患者さんから大好評でした。



新年が始まりました。
今年は申年にかけて、入院患者
さんの病が**去る**ような、食事や
おやつを提供していきたいと
思います。